

水稻の育苗について

1 令和2年産米を振り返って

育苗期間が高温で日照時間は短かったため、やや徒長気味の苗となりましたが、活着は良好でした。

田植後は、長梅雨の影響で弱小分げつが多かったものの、8月以降高温で推移したため、登熟歩合が高まり収量は平年並みとなりました。出穂直後に8月上旬の高温に遭遇し、高温障害による品質の低下が一部でみられました。

本田での生育を揃え、安定して収量を得るには、良質な苗づくりが重要です。活着のよい充実した中苗を育てましょう。

2 目標とする中苗

育苗日数25〜35日、葉齢3.5〜4.0で草丈18cm前後のがっちりした苗の育成を目指します。

3 計画的な播種作業

田植え日から逆算して、育苗25〜35日、浸種7日を目安に、作業計画を立てます。

(1) 種子の準備

毎年採種ほ産の種籾を購入します。病害虫防除のために、温湯消

毒か薬剤消毒を必ず行います。

(2) 浸種

種籾に十分に吸水させ、発芽をそろえるために重要な作業です。種籾容量の2倍以上の水を用意し、「100℃÷平均水温×日数」を目安に浸漬します(例・平均水温15℃の場合、7日間)。

1〜2日おきに籾ネットの上下を入れ替え、水温を均一化し、種籾に酸素を与えます。

温湯消毒の場合は、水面に薄い膜が浮いてきたら水を交換します。薬剤消毒の場合は、薬液から取り出した後、水洗いせずに浸種し、3日間は水を入れ替えないようにします。

酸素不足となり、泡が発生した場合は、ゆつくりと水を交換します。

(3) 催芽

種籾の出芽を均一にするため、はと胸(芽が1mmくらい出た状態)にします。播種の前の一晚(12〜20時間)種籾を28〜30℃の温水に浸漬します。または、濡れむしろ等に種籾を薄く広げ、さらにビニールで包み1〜2日ほど暖かい場所に置きます。

(4) 播種

播種量は、催芽籾で100〜120gを目安とします。

床土を入れ、播種前に育苗箱の底から水がにじむまで、十分かん水してから播種し、覆土します。覆土後のかん水はしません。積み重ね法による簡易出芽を行

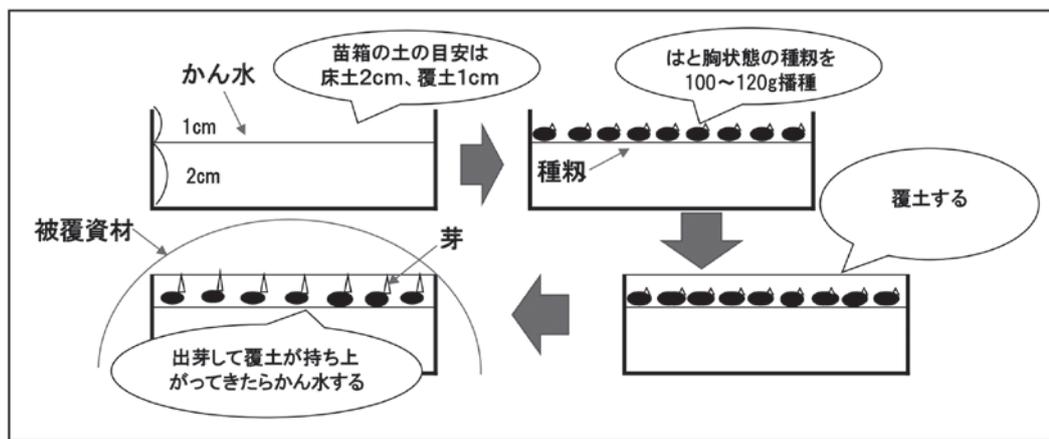


図 播種作業のポイント

う場合には、覆土後、1〜2時間日光で温めてから積み重ね、ビニールで被覆します。

4 育苗管理

(1) 出芽

幼芽が10mmになるまでは、昼夜30℃を目標に管理します。播種後すぐ苗代に並べた場合は、保温マットなどでトンネル被覆し、保温します。

2、3日後幼芽が10mmほどになったら育苗箱を広げます。覆土が持ち上がっている場合は、ジョウロ等でかん水して土を落ち着かせます。種籾が露出している部分については覆土します。

(2) 緑化

苗代に並べた後は、育苗箱上面以上に水を上げないよう注意します。本葉1葉までの3〜4日間は寒冷紗等をかけて強光を避け、昼20〜25℃、夜15〜20℃を目標に管理します。

(3) 硬化

その後は徐々に日光・外気に当て、馴らします。

(4) 田植えまでの管理

過かん水に注意し、土が乾いてきたらかん水するようにします。苗の老化に注意し、適期に田植えが行えるよう準備しましょう。